

大津町備蓄計画



令和 7 (2025) 年 3 月 改正

(はじめに)

大津町のこれまでの備蓄に対する考え方は、災害時において町民自らの最低 3 日間の食料・水の備蓄や生活必需品の備蓄を基本とし、熊本県市町村災害時相互応援に関する協定、熊本県合志市及び菊池郡災害時応援に関する協定更に、大津市と災害時相互応援協定を締結するとともに、J A 菊池・イオン九州・NPO 法人コメリ災害対策センター・株式会社ナフコ・株式会社グッデイ及び株式会社熊本文化の森道の駅大津との災害時における物資の供給等に関する協定を締結しています。

また、町としても不測の事態に備えて、アルファ米やカンパンといった食料、毛布及び簡易トイレ等について備蓄を行ってきました。

一方、大津町では、これまで白川・上井手における洪水等の豪雨災害や急傾斜地域での土砂災害が発生しており、このような災害に対応してきました。

しかしながら、平成 28 年熊本地震では、町民の 3 分の 1 を超える約 1 万 3 千人の住民の方が町の指定避難所等に避難されたため、このような多数の避難者への支援に対処するためには計画的な食糧等の備蓄が必要となってきました。このため、町として災害発生時に必要とされる備蓄品目や備蓄数量等を目的した備蓄計画を策定することにしました。

この備蓄計画においては、自助・共助の考え方を基本とし、住民による日頃からの家庭内備蓄、流通業界及び他市町村からの救援物資等を考慮しながら、住民、企業、行政が一体となり災害に対処することを目標とすることとしています。

なお、この備蓄計画は、新たな災害想定や課題が生じた場合には、その都度検討を加え、修正するものとします。

目 次

1 備蓄計画策定に係わる考え方	1
（１）備蓄物資支給対象者	1
（２）備蓄品目	1
（３）備蓄目標	2
①食糧及び水	2
②生活必需品	3
③資機材等	3
2 整備（購入）計画	4
（１）食糧及び水	4
（２）生活必需品	5
（３）資機材等	5
3 各小・中学校防災資器材等	6
4 その他の指定避難所の防災資器材等	6
5 家庭内備蓄について	6
6 企業等備蓄について	7
7 災害時の物資供給等に関する協定	7
8 防災拠点	8
9 備蓄倉庫	8
10 備蓄目標総括	9

（参考資料）

1 備蓄資機材等の現状	12
2 避難所初動運営キット（基本セット品目）	13
3 防災倉庫 必要面積（試算表）	14

1 備蓄計画策定に係る考え方

(1) 備蓄物資支給対象者

平成28年熊本地震の避難者数を考慮して、大津町の人口 35,187 人（令和2年国勢調査）のうち約30%の10,000人が避難することを想定する。

(2) 備蓄品目

備蓄の品目については、従来から備蓄していた食糧や毛布、簡易トイレ、発電機、投光機等に加えて、水、紙おむつ、生理用品、トイレットペーパー、マスク、懐中電灯、携帯ラジオ、カセットコンロ、簡易ベッド、簡易間仕切り、ブルーシート及び室内テントを備蓄品目に追加するとともに、災害発生時においては、物資供給等の協定に基づき、扇風機、石油ストーブ、炊飯器等の購入についても検討する。

① 食料及び水

1日分の非常食の目安については、2食を基準とし、カンパン等を1食、アルファ米及び副食（レトルト、缶詰等）を1食とする。（アレルギー対応食品も考慮）
水については、大人一人あたり1日3ℓを基準とする。

ア カンパン等

想定される避難者のうち3歳から74歳以下までの方に1日1食分として長期保存が可能で、栄養価が高く容易に食べられるクラッカー等を備蓄する。

イ アルファ米及び炊飯可能な場合の白米

想定される避難者のうち、3歳から74歳以下までの方に、1日に1食分として主食の米飯に近く、長期保存が可能で、調理器具や食器も必要とせずに食べられるアルファ米を備蓄する。

また、炊飯可能な場合において、アルファ米の代用として白米（30kg 袋：ご飯茶碗400杯分）についても備蓄しておくものとする。

ウ アルファ米（おかゆ）又は炊飯可能時のおかゆとしての白米

予想される避難者のうち、1歳から2歳の幼児や75歳以上の高齢者の方に、1日2食分として備蓄する。

エ 水については、大津菊陽水道企業団へ依頼する。

② 生活必需品

生活必需品については、次の品目を備蓄しますが、哺乳瓶、紙おむつ（子供用及び大人用）、生理用品、簡易トイレ用排便収納袋、トイレットペーパーは、3日分を備蓄することとする。

ア 毛布・保温シート、マット・シート、簡易トイレ、簡易トイレ用簡易テント、マスク（伝染病等危機管理用品）

イ 3日分の備蓄品

紙おむつ（子供用及び大人用）、生理用品、簡易トイレ用排便収納袋、トイレットペーパー

ウ 最低限必要な生活必需品としては、毛布、マット・シート、紙おむつ、生理用品、及び簡易トイレを基本とする。

③ 資機材等

資機材等については、次の品目を備蓄する。

発電機、投光機、拡声器、懐中電灯、携帯ラジオ、カセットコンロ、簡易ベッド、簡易間仕切り、ブルーシート及び室内テント（更衣・授乳室用及びプライバシー確保用）とし、災害発生時の状況に応じて、扇風機、石油ストーブ、炊飯器等の購入について検討する。

（３）備蓄目標

備蓄物資支給対象者 10,000 人に配布する食料及び水、生活必需品の備蓄目標を年代や性別を考慮して算定

区 分	割 合	備 考
1 歳、2 歳（2.22%）及び 7 5 歳以上（10.9%）の方	13.12%	アルファ米（おかゆ）、白米
3 歳から 7 4 歳までの方	85.75%	アルファ米、カンパン等、白米
乳幼児 0 歳	1.14%	<u>液体ミルク・離乳食</u>
乳幼児 0 歳から 3 歳までの方	4.57%	紙おむつ（子供用）
1 0 歳から 5 5 歳までの女性	27.33%	生理用品
要介護度 3 以上で現在配布の方	0.15%	紙おむつ（大人用）

（2020 年 10 月国勢調査 総人口 35,187 人、男性 17,449 人、女性 17,738 人）

① 食料（避難者数 10,000 人の 1 日 2 食の 3 日分である 6 食）

ア アルファ米及びカンパン等 【対象】 3 歳から 7 4 歳までの方

災害発生当日から 3 日間の 1 日 2 食として、1 人当たり 6 食分を備蓄

（ア）アルファ米 1 日 1 食として、3 日間の 3 食分を備蓄

【備蓄目標】 26,000 食 $10,000 \text{ 人} \times 85.75\% \times 3 \text{ 食分} \div 26,000 \text{ 食}$

（イ）カンパン等 1 日 1 食として、3 日間の 3 食分を備蓄

【備蓄目標】 26,000 食 $10,000 \text{ 人} \times 85.75\% \times 3 \text{ 食分} \div 26,000 \text{ 食}$

イ アルファ米（おかゆ） 【対象】 1 歳、2 歳及び 7 5 歳以上の方

災害発生当日から 1 日 2 食の 3 日分として、1 人当たり 6 食分を備蓄

【備蓄目標】 8,000 食 $10,000 \text{ 人} \times 13.12\% \times 6 \text{ 食分} \div 8,000 \text{ 食}$

ウ 副食（レトルト及び缶詰）

アルファ米及びアルファ米（おかゆ）の副食として備蓄

【備蓄目標】 34,000 食

アルファ米 26,000 食 + アルファ米（おかゆ）8,000 食 $\div 34,000 \text{ 食}$

エ 液体ミルク・離乳食 【対象】 乳幼児 0 歳

1 人当たり 1 日液体ミルク 1 本、離乳食 2 食として 3 日分を備蓄

【備蓄目標】 360 本（15 ケース:24 本/ケース） $10,000 \text{ 人} \times 1.14\% \times 3 \text{ 日分} \div 350 \text{ 本}$

【備蓄目標】 690 食（23 袋:30 食/袋） $10,000 \text{ 人} \times 1.14\% \times 2 \text{ 食} \times 3 \text{ 日分} \div 690 \text{ 食}$

② 生活必需品

ア 紙おむつ（子供用） 【対象】 乳幼児 0 歳から 3 歳までの方

1 人 1 日当たり 8 枚として 3 日分備蓄

【備蓄目標】 11,000 枚 $10,000 \text{ 人} \times 4.57\% \times 8 \text{ 枚} \times 3 \text{ 日分} \approx 11,000 \text{ 枚}$
イ 紙おむつ（大人用）【対象】 要介護度 3 以上で現在配布の方
1 人 1 日当たり 6 枚として 3 日分備蓄

【備蓄目標】 300 枚 $10,000 \text{ 人} \times 0.15\% \times 6 \text{ 枚} \times 3 \text{ 日分} \approx 300 \text{ 枚}$
ウ 生理用品【対象】 10 歳から 55 歳までの女性の方
4 週間に 1 回として換算し、1 人 1 日当たり 8 枚として 3 日分を備蓄

【備蓄目標】 16,400 枚
 $10,000 \text{ 人} \times 27.33\% \times 8 \text{ 枚} \times 3 \text{ 日分} \times 1 / 4 \text{ 週} \approx 16,400 \text{ 枚}$
エ 毛布（保温シートを含む。）及びマット・シート
避難所における毛布やマット・シートの備蓄については、10,000 枚のうち半数の 5,000 枚を当初の目標として計画的に備蓄する。残りの 5,000 枚については避難者による自主的な持ち込み可能な数量として見積もっている。

【備蓄目標】 5,000 枚
オ 簡易トイレ【対象】 紙おむつ使用者を除く全員の方
50 人当たり 1 基として備蓄

【備蓄目標】 200 基 $10,000 \text{ 人} \div 50 \text{ 人} / \text{基} \approx 200 \text{ 基}$
カ 簡易トイレ用簡易テント【対象】 紙おむつ使用者を除く全員の方
50 人当たり 1 基として備蓄（簡易トイレと同数）

【備蓄目標】 200 個
キ 簡易トイレ用排便収納袋【対象】 紙おむつ使用者を除く全員の方
1 人当たり 1 枚として 3 日分を備蓄

（予備電源による地下水の活用や汲取り式仮設トイレの活用を優先する。）

【備蓄目標】 30,000 袋 $10,000 \text{ 人} \times 1 \text{ 袋} \times 3 \text{ 日分} \approx 30,000 \text{ 袋}$
ク トイレトペーパー【対象】 紙おむつ使用者を除く全員の方
3 日分を備蓄（1 人 1 日 5 m、60 m トイレトペーパーの個数）

【備蓄目標】 2,500 個
 $10,000 \text{ 人} \times 5 \text{ m} \text{（1 人 1 日分使用量）} \times 3 \text{ 日分} \div 60 \text{ m} \approx 2,500 \text{ 個}$
ケ マスク【対象】 避難者全員の方（伝染病等危機管理用品として備蓄）

【備蓄目標】 30,000 枚 $10,000 \text{ 人} \times 3 \text{ 枚} = 30,000 \text{ 枚}$

② 資機材等【対象】 屋内施設を有する避難所 23ヶ所を基準

（各指定避難所に避難所初動運営キットを設置 参考資料 2「基本セット品目」）

ア 発電機（1 施設当たり 2 台基準）（燃料（ガソリン・カセットガス）を含む。）

【備蓄目標】 46 台 避難所 23ヶ所 $\times 2 \text{ 台} = \underline{46} \text{ 台}$

イ 投光機（1 施設当たり 2 台基準）

【備蓄目標】 46 台 避難所 23ヶ所 $\times 2 \text{ 台} = \underline{46} \text{ 台}$

ウ 拡声器（1 施設当たり 2 台基準）

【備蓄目標】 46 台 避難所 23ヶ所 $\times 2 \text{ 台} = \underline{46} \text{ 台}$

エ 懐中電灯（1 施設当たり 2 個基準）

【備蓄目標】 46 個 避難所 23ヶ所 $\times 2 \text{ 個} = \underline{46} \text{ 個}$

- オ 携帯ラジオ（1施設当たり1台基準）
 【備蓄目標】 23台 避難所 23ヶ所×1台 = 23台
- カ カセットコンロ（カセットガスを含む。）（1施設当たり2台基準）
 【備蓄目標】 46台 避難所 23ヶ所×2台 = 46台
- キ 簡易ベッド及びダンボールベッド
 75歳以上の方の避難予定者数1090名を基準とする。
 【備蓄目標】 1000台
- ク 簡易間仕切り
 【備蓄目標】 プライバシー確保用として1000セット
- ケ ブルーシート（1施設当たり10枚基準）
 熊本地震における全壊（154棟）半壊（1372棟）一部損壊（3796棟）
 の半壊以上を基準として約2000枚
 【備蓄目標】 2230枚
 避難所 23ヶ所×10枚 = 230枚 230枚+2000枚=2230枚
- コ 室内テント（1施設あたり 12張基準：更衣・授乳室用等2張
プライバシー確保用として10張）
 【備蓄目標】 276張 避難所 23ヶ所×12張 = 276張
- サ 災害発生時に購入予定の資機材
 (ア) 扇風機（1施設当たり2～3台基準）
 【購入基準】 58台 避難所 23ヶ所×2.5台 ≒ 58台
 (イ) 石油ストーブ（1施設当たり2～3台基準）
 【購入基準】 58台 避難所 23ヶ所×2.5台 ≒ 58台
 (ウ) 炊飯器（水道、電気等のライフラインが使用可能な場合の資器材）
 1合の炊飯で、茶碗大盛200gで2杯分
 1升炊き=20食（大盛20杯）、5合炊き=10食（大盛10杯）
 【購入基準】 200食の炊飯の場合：1升炊き10台又は5合炊き20台
 白米1袋30kg（200合：400食）を1回で炊飯

2 整備（購入）計画

(1) 食料及び水

① アルファ米、カンパン等及び副食

5年間以上の保存期間があるものを計画的に購入するとともに、初期目標として、1日20,000食の3日分60,000食を備蓄することを目標とする。

また、給食センターにおける米の炊飯や物流が可能な場合は、物資の供給等に関する協定に基づいた食糧の購入も計画する。

備 蓄 品	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標数	現有数
カンパン等 (食)	5,200	5,200	5,200	5,200	5,200	2,6000	<u>15,972</u>
アルファ米 (食)	5,200	5,200	5,200	5,200	5,200	2,6000	<u>27,620</u>
アルファ米おかゆ(食)	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	8,000	<u>5,100</u>
合 計 (食)	12,000	12,000	12,000	12,000	12,000	60,000	<u>48,692</u>

(R7年1月現在)

② 水

大津菊陽水道企業団へ依頼するとともに、庁舎地区については循環型貯水タンク 4 t を整備。大津菊陽水道企業団は、500ml ペットボトル 10,000 本を備蓄するとともに楽善タンク 1,100 t・美咲野タンク 4,000 t 等を保有しており、緊急時については、各タンクの 6 割合計約 3000 t が使用可能であり、給水車等による給水を依頼する。

この際、町の支援要領等について事前に協議しておくものとする。

この他、水源地からの給水についても計画する。

※ 保存期間が残り 1 年未満となった食料については、町の総合防災訓練や自主防災組織等の訓練の際に配布するとともに、町の様々なイベント及び小・中学校の防災教育の一環として活用する。さらに、貧困世帯への配布等フードバンクとしても検討する。

(2) 生活必需品

① 哺乳瓶・紙おむつ・生理用品・マスク

保存状況や衛生面を考慮しながら計画的に購入

② 毛布

長期保存が可能な真空パック入りの毛布を計画的に購入

③ 簡易トイレ・簡易トイレ用テント・簡易トイレ用排便収納袋・トイレットペーパー

保存状況や衛生面を考慮しながら計画的に購入するとともに、備蓄物資として適さなくなった、生活必需品については可能な限り再利用する。

(3) 資機材等

発電機（燃料を含む。）、投光機に加えて、拡声器、懐中電灯、携帯ラジオ、カセットコンロ（カセットガスを含む。）、簡易ベッド、簡易間仕切り、ブルーシート及び室内テントとし、保存状況を考慮しながら計画的に購入する。

また、石油ストーブ、扇風機、炊飯器等の購入については、災害発生時の状況により、物資の供給等に関する協定に基づき購入する。

(最低限必要主な生活必需品等)

備蓄品	必要数	現有数	1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目
毛布	5,000 枚	1,200	800 枚	800 枚	800 枚	800 枚	600 枚
マット・シート	5,000 枚	700	860 枚	860 枚	860 枚	860 枚	860 枚
簡易トイレ	200 基	710	220 基で 11,000 人分（1 基／50 人で算定） 便袋については、94,000 枚を保有				
トイレットペーパー	2,500 個		500 個	500 個	500 個	500 個	500 個
小児用おむつ	11,000 枚	27,500	保管状況に応じて購入する。				
大人用おむつ	300 枚	3,980	保管状況に応じて購入する。				
生理用品	16,400 枚	21,200	保管状況に応じて購入する。				
簡易ベッド	1,000 台	250	150 台	150 台	150 台	150 台	150 台
簡易間仕切り	1,000 セット		200 セット	200 セット	200 セット	200 セット	200 セット
マスク	30,000 枚	58,810	保管状況に応じて購入する。				

3 各小・中学校における防災資機材等

9校（護川小、北小、室小、美咲野小、大津小、南小、東小、大津中、北中）

資機材等名（数量）	
発電機（カセットガスを含む）（1台）	ヘルメット（10個）
携帯用担架（1個）	懐中電灯（1個）
手回し充電ラジオ（1台）	毛布（10枚）
テレビ（1台）（大津南小を除く。） （＋矢護川コミュニティセンター、陣内地区公民館分館）	

※ 管理状況について年1回を基準に確認する。（担当：防災交通課）

4 その他の指定避難所における防災資機材等

各小・中学校に準じて防災資機材等を整備するとともに、資機材等を格納するための防災倉庫（ヨド物置等）についても計画的に整備する。

5 家庭内備蓄について

家庭内備蓄の意義や必要性について、パンフレットや広報誌、自主防災組織等を通じて、住民に対して継続的に広報する。

家庭内備蓄の広報に際しては、最低限3日以上 of 食料や1人1日3リットル以上の飲料水の備蓄、また、災害発生時にすぐに取り出せる場所への保管について呼びかける。

【家庭で用意することが望ましいもの】

○食料等（※最低でも3日分、できれば1週間分程度）

主 食	（エネルギー及び炭水化物の確保） 精米又は無洗米、レトルトご飯・アルファ米、小麦粉、パン（食パン）、乾麺（うどん、そば、パスタ）、即席麺、カップ麺、乾パン、パンの缶詰、シリアル類 等	
	（たんぱく質の確保） 肉・魚・豆などの缶詰、レトルト食品、豆腐（充填）、乾物（鰹節、桜海老、煮干等）、ロングライフ牛乳 等	
副 菜	（野菜・山菜・海藻類等） 梅干、のり、乾燥わかめ・ひじき、日持ちする野菜類（たまねぎ、ジャガイモ、乾燥野菜、漬物等）、缶詰（トマト水煮等）、野菜ジュース 等	
	汁物	インスタント味噌汁、即席スープ等
	果物	缶詰（桃、みかん、パイナップル等）、果汁ジュース、日持ちする果物（バナナ、りんご、みかん、柿など季節に応じた果物）等
	その他	調味料（塩、味噌、醤油、酢、砂糖、食用油、ケチャップ、マヨネーズ、バター等） 嗜好品（緑茶、紅茶、コーヒー、ココア等） 菓子類（チョコレート、飴、ビスケット、煎餅等） 日常使用している食品（食物アレルギー対応食品、香辛料等） その他（ふりかけ、ジャム、はちみつ、スキムミルク等）

熱源のカセットコンロ（カセットガスを含む。）、缶切り

○水（※1人当たり1日3リットル以上）

○資機材等

携帯ラジオ、乾電池、懐中電灯、軍手、タオル、ウェットティッシュ、使い捨てカイロ、ばんそうこう、常備薬等

6 企業等の備蓄について

大規模災害が発生した場合、消防・自衛隊等の行政機関は、道路の渋滞や多数の出動要請により即座に企業からの救援要請に対応できるとは限りません。

阪神淡路大震災の際には、倒壊した建物から救出され生き延びた人の約8割が家族や近所の住民等に救出され、消防、警察、及び自衛隊によって救出されたのが約2割という調査結果があります。

このため、企業等は、ライフラインの復旧にめどが立つ3日分程度の備蓄品を確保するとともに、必要であれば、安全が確認できるまでの間、会社施設内に社員を待機させることが可能となるような処置をとってもらう。

また、所有する施設の耐震性を強化するとともに、収納棚等の転倒防止などを実施し、社員等の安全確保に努めてもらう。

[企業等で用意することが望ましいもの]

○食料・飲料水（※3日以上）

○資機材等

毛布、簡易トイレ、医薬品、ラジオ、乾電池、懐中電灯、ヘルメット、軍手など

7 災害時の物資供給等に関する協定

協 定 先	協 定 名	物資の範囲
NPO 法人コメリ災害対策センター	災害時における物資供給に関する協定書	作業関係、日用品等、水関係、冷暖房機器等、電気用品、トイレ関係等
イオン九州株式会社	災害時における物資の供給及び平常時における防災活動への協力に関する協定書	食料品、生活必需品、その他町が指定するもの
南九州コカ・コーラボトリング株式会社	災害時における自動販売機内商品の無償提供に関する協定書	自動販売機内商品
菊池地域農業協同組合（大津中央支所）	災害時における施設等の利用、物資の供給及び平時における防災活動への協力に関する協定書	施設の利用、食料品、生活必需品、その他町が指定するもの
株式会社ナフコ	災害時における物資供給に関する協定書	作業関係、工具類、食糧・飲料水、生活必需品、調理・電気用品、暖房機器等
株式会社熊本文化の森道の駅大津	災害時における物資供給に関する協定書	食品、日用品等、衣料品等、その他（レストラン）
<u>株式会社グッデイ</u>	<u>災害時における物資の調達及び供給に関する協定書</u>	<u>作業関係、日用品、水関係、冷暖房機器、電気用品、トイレ関係等</u>

8 防災拠点（北部・中部・南部エリアにそれぞれ一箇所配置）

災害時において、主として、短期から中長期に至るまでの避難収容や、他避難所の被災に対応したバックアップ避難収容、物資の備蓄・配送基地、支援隊・地域防災組織の参集基地等としての役割を、平時においては防災教育の場としての役割を担う。

(1) 北部地区： 矢護川コミュニティセンター

上猿渡、下猿渡、御所原、馬場、宮本、多々良、仮宿、古城、米山、真木、御所原
上中、下中、片俣、小林、今村、杉下、杉上、上の原、源場、護東、つつじ台、
桜丘 (R7年1月現在 4,462名 13%)

(2) 中部地区： 役場地域

立石、後迫、上鶴、上鶴南、上大津、西嶽、水源町西窪、松古閑塘町、中央、中学通
り、駅通、室東、室北、室西、北出口、あけぼの区、灰塚、新、引水、高尾野、新小
屋、楽善、日吉が丘、美咲野1・2・3・4丁目 (R7年1月現在 21,906名 62%)

(3) 南部地区： 大津町運動公園

内牧、外牧、錦野、鳥子川、岩坂、瀬田、大林、吹田、森、上陣内、中陣内、下陣内、
町、下町、中島、鍛冶、大津東、引水東 (R7年1月現在 8,793名 25%)

9 備蓄倉庫

北部・中部・南部地区の防災拠点に備蓄倉庫を整備する。

(1) 北部地区： 矢護川コミュニティセンター教室等の活用

(2) 中部地区： 楽善防災倉庫 (417 m²)

(3) 南部地区： 大津町運動公園防災倉庫 (86.4 m²)

※ 備蓄食糧及び備蓄用品の必要保管面積は、296 m² (食糧 60 m²、生活必需品 236 m²)
であり、倉庫面積には問題はないが、国・県等からのプッシュ型の支援物資への対応に
においては、協定等による民間の倉庫等の活用や大津中学校体育館 (800 m²) を集積場と
して活用する。この際、リフトやローラーコンベア等の利用についても事前に調整して
おく必要がある。

また、各倉庫においては、備蓄物資の看板を設置するとともにピンカード等による管
理を確実に行うものとする。

(参考資料3) 防災倉庫 必要面積 (試算表)

(参考) 2025年1月現在の備蓄倉庫等

① 楽善防災倉庫	(417 m ²) 13.9m×30m
② 大津中央公園防災倉庫	(43.2 m ²) 2.4m×6m (3 個)
③ 大林地区防災用資機材倉庫 (兼水防倉庫)	(104.32 m ²) 7.323m×14.246m
④ <u>大津町運動公園防災倉庫</u>	<u>(86.4 m²) 12m×7.2m</u>

10 備蓄目標総括

備蓄品の備蓄割合については、住民数に応じて、北部 15%中部 60%南部 25%とする。

分類	備 蓄 品 目	備 蓄 目 標			
		合 計	内 訳		
			北部 15%	中部 60%	南部 25%
食料	カンパン等	26,000 食	3,900	15,600	6,500
	アルファ米	26,000 食	3,900	15,600	6,500
	アルファ米(おかゆ)	8,000 食	1,200	4,800	2,000
	白米(30kg 俵 400 杯)	必要数		必要数	
	副食(レトルト)	34,000 食	5,100	20,400	8,500
	<u>液体ミルク</u>	<u>360 本</u>		<u>360 本</u>	
	<u>離乳食</u>	<u>690 食</u>		<u>690 食</u>	
生活必需品	紙おむつ(子供用)	11,000 枚	1,650	6,600	2,750
	紙おむつ(大人用)	300 枚	45	180	75
	生理用品	16,400 枚	2,460	9,840	4,100
	毛布(保温シート)	5,000 枚	750	3,000	1250
	マット・シート	5,000 枚	750	3,000	1250
	簡易トイレ	200 基	30	120	50
	簡易トイレ用簡易テント	200 基	30	120	50
	簡易トイレ用排便収納袋	30,000 袋	4,500	18,000	7,500
	トイレトペーパー(60m)	2,500 個	375	1,500	625
	マスク(伝染病等管理用品)	30,000 枚	4,500	18,000	7,500
資機材等	発 電 機	<u>46 台</u>	各指定避難所 2 台		
	投 光 機	<u>46 台</u>	各指定避難所 2 台		
	拡 声 器	<u>46 台</u>	各指定避難所 2 台		
	懐 中 電 灯	<u>46 台</u>	各指定避難所 2 台		
	携帯ラジオ	<u>23 台</u>	各指定避難所 1 台		
	カセットコンロ(カセットガスを含む。)	<u>46 台</u>	各指定避難所 2 台		
	簡易ベッド	1,000 台	150	600	250
	簡易パーティション	<u>1000 セット</u>		<u>1000</u>	
	ブルーシート	2,000 枚	300	1,200	500
		<u>230 枚</u>	各指定避難所 10 枚		
	室内テント	<u>276 張</u>	各指定避難所 <u>12 張</u>		
	(石油ストーブ)	55 台		55	
	(扇 風 機)	55 台		55	
	(炊 飯 器)	1 升炊き 10 台 5 合炊き 20 台			

(保管場所) 北部：矢護川コミュニティセンター、中部：楽善防災倉庫、南部：運動公園防災倉庫

参考資料 1

備蓄資機材等の現状 (2025 年 1 月現在)

分 類	品 目	数 量
食料及び水	カンパン等	15,972 食
	アルファ米	32,720 食
	水	(大津・菊陽水道企業団 500ml ペットボトル 10000 本)
生活必需品	毛 布	1,200 枚 (楽善 100 枚、運動公園 1,080 枚、 ビジターセンター等 20 枚)
	4 層アルミシート	280 枚
	マット・シート	700 枚 (楽善 500 枚、役場 200 枚)
	簡易トイレ	710 基 (楽善 220 基、運動公園 490 基)
	簡易トイレ用排便収納袋	94,000 枚
	紙おむつ	小児用 27,525 枚 大人用 3,984 枚
	生理用品	20,600 個
	マスク	58,810 枚
資機材等	簡易ベッド	279 個 段ボールベッド (楽善 100 個矢護川 100 個) 簡易ベッド (役場 74 個矢護川 5 個)
	室内テント	40 セット
	簡易パーティション	20 セット (楽善 18 セット総合体育館 2 セット)
	発電機(900VA×4、 1.6KVA×3)	7 台
	投光機(300W ライト×2)	5 台
	拡声器	8 台
	防災テント(エアテント)	1 張
	ブルーシート	5670 枚
	スポットクーラー	9 台
	カセットコンロ、ガス	477 台、1,440 本
	ポリタンク (20ℓ)	100 個
	レインコート (12 枚/箱)	670 箱 (8,040 枚) (S130 箱、M290 箱、L230 箱、LL20 箱)
	寝 袋	120 個 (楽善 80 個、大林 40 個)
	料理鍋(51cm)	3 個 (ボール×2、ザル×2、シャモジ×3、杓子×2)
	災害用煮炊釜	1 セット (プロパンガス使用)

参考資料 2

避難所初動運営キット（基本セット品目）

番号	品 目	個 数	用 途
1	使用マニュアル	一式	使い方を理解します
2	案内標識	一式	事前に掲示場所を決めます
3	腕章	5 枚	役割を確認し運営中は着用します
4	スケッチブック	1 冊	手書き掲示等に使用します
5	軍手	10 双	作業を行う際、けが防止に着用します
6	電源タップ（6 個口）	1 本	避難所運営に必要な機器の充電に使用します
7	ハサミ	1 本	書類やひも等の切断に使用します
8	カッターナイフ	1 本	荷物の開封や布の切断等に使用します
9	ポリ袋（4 5 L）	30 枚	ゴミ袋や靴入れ、広げて白板代わりに使用します
1 0	マスク	7 枚	救護時等に使用します
1 1	救急バン	1 箱	ガーゼや包帯等の追加品も検討しましょう
1 2	ブルーシート	6 畳	運営本部の場所確保に使用します
1 3	油性マーカー（赤）	3 本	段ボールへの書込みや掲示物作成等に使用します
1 4	油性マーカー（黒）	5 本	段ボールへの書込みや掲示物作成等に使用します
1 5	ボールペン（黒）	10 本	受付カード記入等に使用します
1 6	鉛筆（消しゴム付）	1 ダース	受付等に使用します
1 7	鉛筆削り	1 個	受付等に使用します
1 8	トラロープ	1 本	危険箇所への立入規制等に使用します
1 9	トラテープ	1 巻	危険箇所に貼ります
2 0	布粘着テープ	1 巻	物の固定や段ボール内の品名記入等に使用します
2 1	養生テープ	2 巻	掲示物の貼り出しや名札代わりに使用します
2 2	メガホン	1 個	情報の周知等に使用します
2 3	保安指示灯（単 3 使用）	1 本	誘導の際に使用します
2 4	懐中電灯（単 3 使用）	2 本	夜間の巡回等に使用します
2 5	アルカリ乾電池（単 3）	8 本	単 3 電池を使用する機器で統一します 定期的に使用期限を確認しましょう

防災倉庫 保管面積（試算表）					
備蓄種類		試算内訳	1箱容積	食数等	必要容積
備蓄食料	食料 1万食×3日分 (6万食)	10000人 1日(2食)	アルファ米＝(50食 422×307×198mm)	30000食	15.6㎡
			カンパン・ビスケット＝(48食 297×447×185mm)	30000食	15.7㎡
				小計	31.3㎡
		①÷1.8m（積上げ分）			17.4㎡
		②×1.6（通路等 60%増分）			27.9㎡
※ 楽善防災倉庫の食糧備蓄棚の保管状況から、6万食の必要面積は、試算の2.15倍の60㎡ (16棚(1棚8箱(1箱50食))6400食 4.85m×1.3m(棚幅0.65m通路0.65m)＝6.305㎡ 60000食÷6400食×6.305㎡÷60㎡)					
備蓄種類		試算内訳	1箱容積	食数等	必要容積
備蓄用品	毛布	5,000枚	10枚(540×320×340mm)	5000枚	29.5㎡
	マット及びシート	5,000枚	アルミマット(1枚155×600×70mm)	5000枚	33.0㎡
	簡易トイレ200個	200基	1個(495×400×140mm)	200個	5.6㎡
	トイレットペーパー	2,500個	12個入り(204×204×342mm)	2,500個	3.2㎡
	オムツ	小児 11,000枚	L64枚(390×386×158mm)	11,000個	4.2㎡
		大人 300枚	L20枚(282×221×363mm)	300個	0.4㎡
	生理用品	16,400枚	1袋20枚(133×90×95mm)	16,400個	1.0㎡
	ダンボールベッド (簡易ベッド)	1,000台	1台(818×265×285mm)	1000台	62.0㎡
	簡易パーテーション	1,000セット	1セット(1000×210×790mm)	1000個	165.9㎡
				小計	304.8㎡
		①÷1.8m（積上げ分）			169.4㎡
		②×1.6（通路等 60%増分）			271.1㎡
③+⑥＝ 299 ㎡ ... 備蓄食料・物資の保管総面積(試算)					
※ 楽善倉庫の食糧備蓄状況から試算した必要面積は、2.15倍の643㎡					